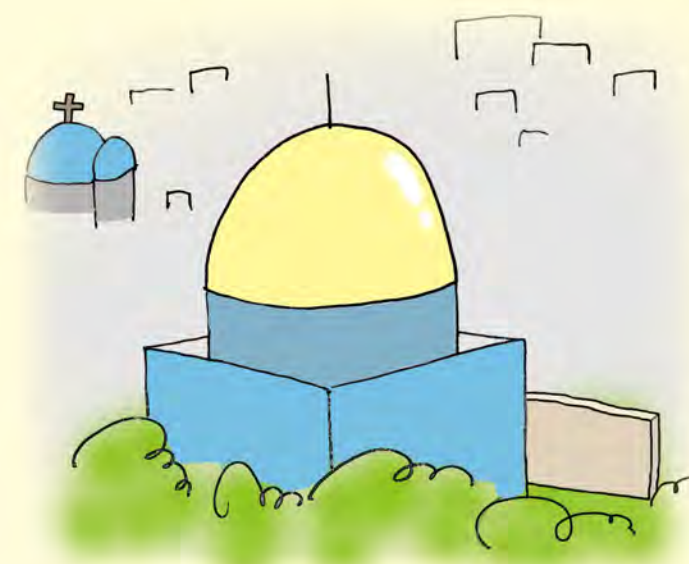


# うたまつり 大本歌祭



## エルサレムで歌祭を

歌祭は、亀岡・天恩郷で毎年行われていますが、大本とゆかりのある国内各地でも行われています。また、これまでには、ニューヨークやブラジルなど、海外でも行われてきました。

また、平成5年、京都府綾部市にある大本・長生殿では、世界の各宗派の代表が集い、歌祭の形式で平和への祈りをささげました。現在、世界では多くの地域で絶えず紛争が起きています。大本では、歌祭の精神にのっとり、中立・平和の言葉であるエスペラント（「大本いろは」No.17で紹介）を使つての歌祭を中東・エルサレムで行い、世界平和を祈りたいと願っています。



「歌祭」と聞いてどんなことを想像しますか？ 年末に行われる歌謡祭や町内会でのカラオケ大会？……ではありません。

歌祭とは、人びとの心を和め、平和を祈るために、遠い昔から行われてきた日本の伝統的な神事です。

大本では、毎年8月6日（京都府亀岡市天恩郷）に、「大本歌祭」を行っています。さて、歌祭とは、どのような神事なのでしょう。



みろく博士

大本本部  
綾部・梅松苑 綾部祭祀センター  
〒623-0036  
京都府綾部市本宮町1-1 梅松苑 / TEL 0773 (42) 0187

亀岡・天恩郷 亀岡宣教センター  
〒621-8686  
京都府亀岡市天恩郷 / TEL 0771 (22) 5561

東京本部 東京宣教センター  
〒110-0008  
東京都台東区池之端 2-1-44 / TEL 03 (3821) 3701

大本ホームページ <http://www.oomoto.or.jp/>



<連絡先>





歌垣の中央には八雲神歌、その周りには、寄せられた献詠歌が並べられている。朗詠の前後には、舞姫が世界を払い清める舞を舞う



梅の枝で作られたバチで弓太鼓を打ち鳴らす

### 和合の神事



歌祭では、願いや感謝の心を五・七・五・七・七の和歌に詠んで供えます。私たちの祖先は、日々の暮らしで募ったわだかまりやもめごとを祓い清める神事として、村ごとに歌祭を行っていました。

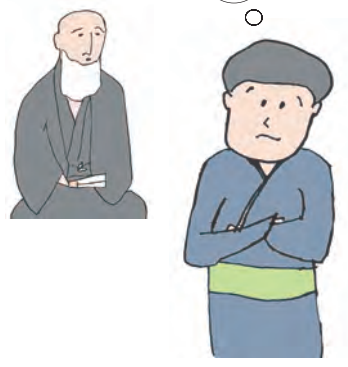
しかし、奈良時代になると、村々で行われていた神事から、貴族たちが自作の和歌を比べる遊戯に変わっていききました。そうして、神事としての歌祭は途絶えてしまいました。

### 古式にのっとった歌祭を復興

大本教祖の一人である出口王仁三郎聖師は、青年時代、国学者の岡田惟平翁から歌祭の意義や執り行い方を学びました。

王仁三郎聖師は昭和10年、国や宗教の壁を越えて幸せに暮らせるように祈る神事として、歌祭を復興しました。

現在は、8月6日に京都府亀岡市にある聖地・天恩郷で毎年行われています。



### 歌垣

大本歌祭には、「歌垣」というピラミッド型の祭壇を 사용합니다。

祭壇の中央の柱には、素盞鳴尊が詠んだ「八雲立つ出雲八重垣妻ごみに八重垣つくるその八重垣を」(八雲神歌)の歌が、四方面にご神体として掲げられます。その神歌の下端には、世界平和を願い、日々の暮らしへの感謝の気持ちを込めて詠まれた和歌を献詠歌として供えます。献詠歌は、夷振調という独特の節回しで朗詠されます。

### 弓太鼓

朗詠を行う時に、弓太鼓で拍子をとります。弓太鼓は、大きな桶を裏返しに置き、弓道の弓をくりつけて組み、梅の枝のバチで弦を打ちます。

王仁三郎聖師は、弓太鼓が生まれたことがきっかけで、八雲神歌が詠まれたと説いています。



### 日本神話と歌祭 その①

#### すさのおのみこと 素盞鳴尊とくしなだひめ 櫛稲田姫のであい

大本の歌祭では、3人の舞姫が舞を舞います。中央は日本神話の「素盞鳴尊の八岐大蛇退治」に登場する櫛稲田姫、その両脇は姫の両親である手撫槌と足撫槌の三神を表しています。

神話では、伊邪那岐尊から地上世界を統治するように命ぜられた素盞鳴尊は、出雲国を訪ねます。そこで、涙に暮れる三神とであいました。素盞鳴尊が涙の訳を尋ねると、「櫛稲田姫には7人の姉がいたが、みな八岐大蛇に食べられ、今夜は櫛稲田姫が食べられてしまう」と話しました。素盞鳴尊は、三神の元へやってきた八岐大蛇を泥酔させて、剣で切り払い、大蛇を退治しました。



#### 日本神話と歌祭 その②

#### 弓太鼓の響きから生まれた「八雲神歌」

素盞鳴尊が八岐大蛇を退治したことがきっかけで、素盞鳴尊と櫛稲田姫は結ばれました。

その後、素盞鳴尊は、世界が平和になるとまるとるにはどうしたらよいのかと心を痛めていました。

素盞鳴尊の様子を見ていた櫛稲田姫は、素盞鳴尊を励ましたいと、弓を桶にくくりつけてポンポンと打ちました。この音に励まされた素盞鳴尊は、「世界各地には八重垣(障壁)が築かれ、八雲(いやくも)が立ち昇っている。そのいやくもをすつかり払うために世界中の人が一つになれば、国境がなくなり、世界が一つになる」との気持ちを詠みました。

ちなみに、八雲神歌は日本で初めて詠まれた和歌でもあります。

